



第二部 収益基盤の強化と 財務体質の改善に向けて

取締役社長 坂本 吉弘

中期事業計画(2005~2007年度)の推進に当って

- 将来の飛躍に向けた基礎固めの3年間
- 収益基盤の安定化に向けた積極的投資
- 柔軟かつ多様な資金調達手段確保に向けた財務体質の改善・強化

上流事業

- 新規プロジェクト発掘・事業化への投資(投資規模 約300億円)
⇒ エジプト・スエズ湾で探鉱作業開始へ
- 生産原油3万B/D超の確保

下流事業

- 低コスト体質の強化・維持
- 需要構造の変化に対応した製品の白油化・高付加価値化
⇒ 石油化学製品の生産能力増強

上流部門収益力改善に向けた積極的投資

- コア・エリア⇒中東、北アフリカ、中央アジア
- 低リスク、早期資金回収・適正リターン
 - ① 既発見油田・ガス田の開発案件
 - ② 生産能力増強案件
- 投資規模 約300億円(05～07年度)
- 原油換算生産量30千B/D(07年度)の達成

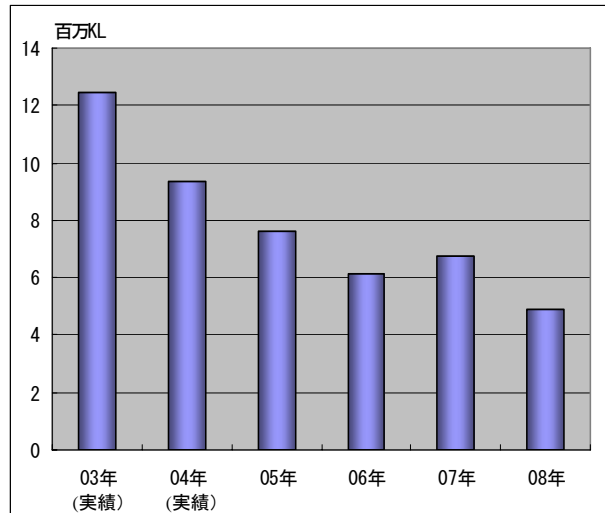
エジプト・スエズ湾(2鉱区)で
探鉱作業を開始



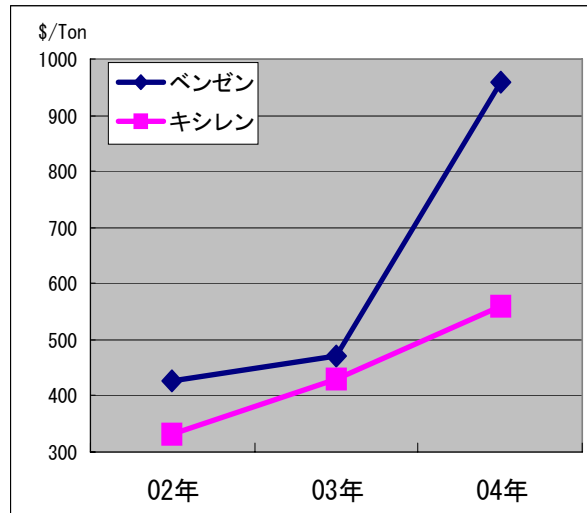
需要構造の変化

- 需要旺盛な石油化学製品
- 電力向けC重油の需要減少トレンド
- 堅調に推移する海外製品市況

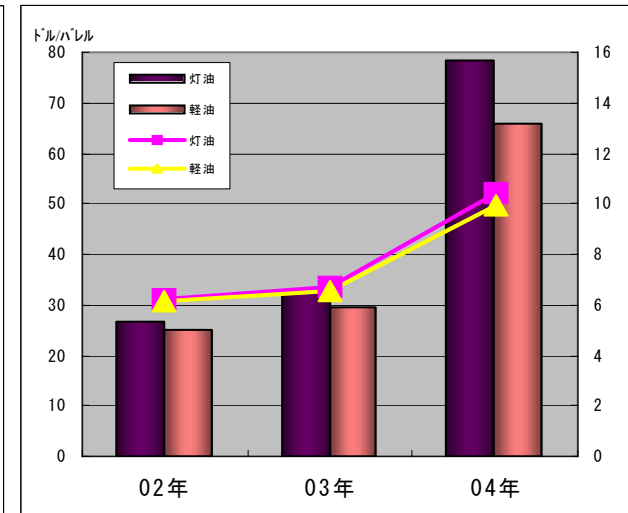
全国電力用C重油需要見通し(経済産業省)



石化製品価格推移(USCP)



シンガポール製品価格推移(PLATTS)



折線グラフは価格(左軸)
棒グラフはドバイ原油との価格差(右軸)

製品の白油化／高付加価値化

- 石油化学製品の生産能力増強(05年定修時)
 - ◆ ベンゼン (生産能力:365日ベース) 19万ト/年 ⇒ **20万ト/年**
 - ◆ キシレン (生産能力:365日ベース) 26万ト/年 ⇒ **28万ト/年**
- 流動接触分解装置(FCC)増設の必要性について検討を開始

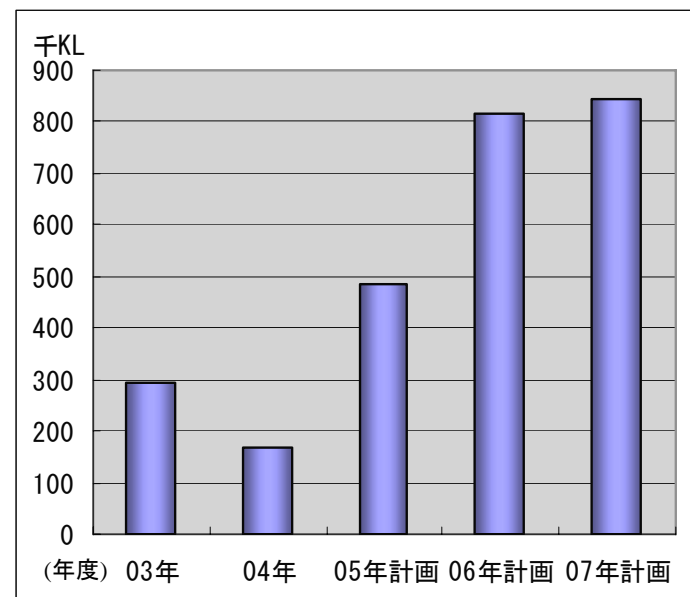
製品輸出の拡大

- 重油留分を分解した軽油を中心に輸出

石油化学製品の販売量 (千ト)

| | 03年度 (実績) | 04年度 (実績) | 05年度 (計画) | 06年度 (計画) |
|------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| ベンゼン | 131 | 156 | 152 | 180 |
| キシレン | 244 | 259 | 251 | 271 |
| 計 | 375 | 415 | 403 | 451 |

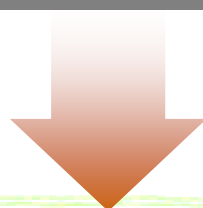
製品(中間留分)輸出数量



財務体質の改善（1）

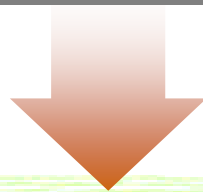
◆ 追加的キャッシュフローの創出

- ① 付加価値向上投資・競争力強化による収益基盤の底上げ・安定化
- ② グループ内資金・非事業資産の有効活用



◆ 外部負債削減

新規・更新投資借入の抑制
（自己資本比率・DEレシオ向上）



◆ 資本市場の信認の向上

中・長期的成長確保に向けた
大型投資実施に備え調達能力強化

■ キャッシュフロー内訳

| | 05-07累計 | (単位:億円) |
|----------|---------|---------|
| 経常利益 | 420 | } 540 |
| 減価償却 | 120 | |
| 設備投資 | ▲240 | } ▲350 |
| 税金、配当 他 | ▲110 | |
| キャッシュフロー | 190 | |

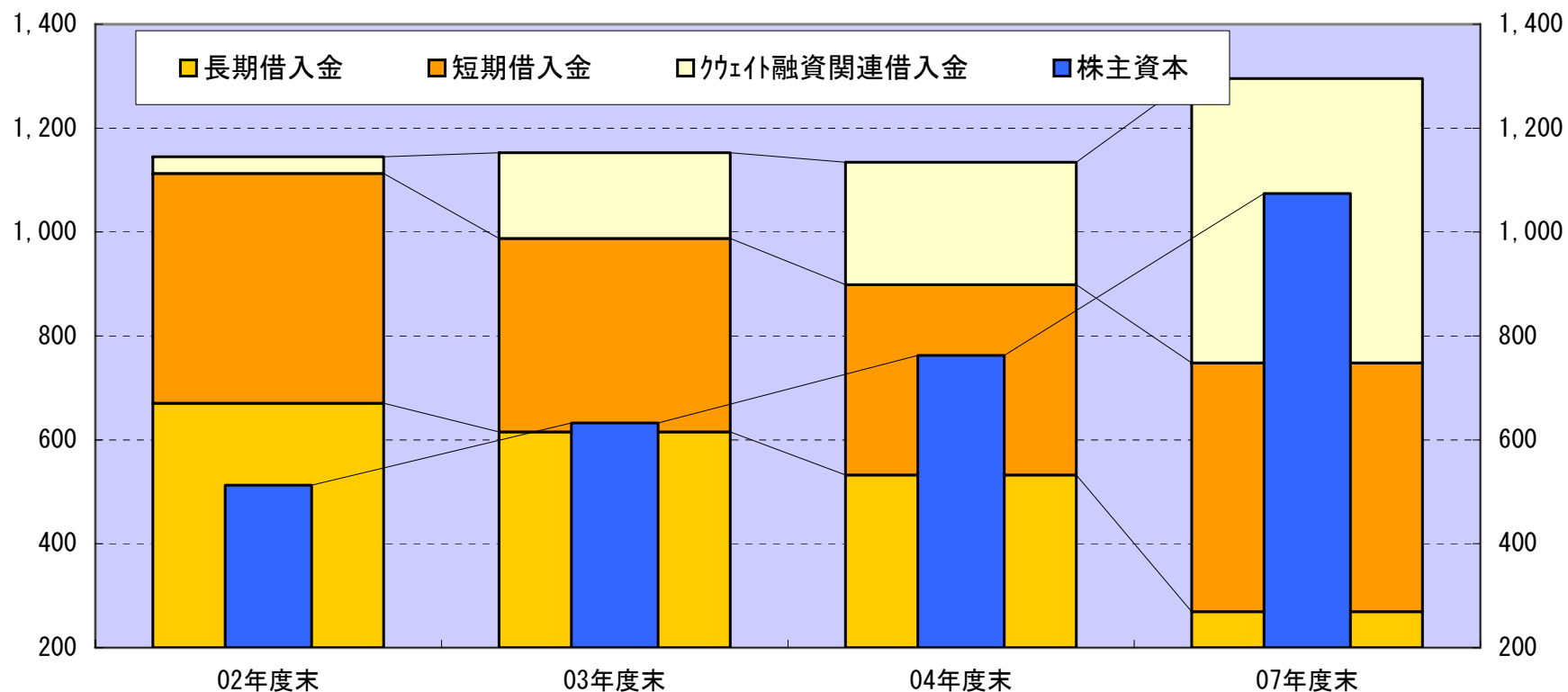
負債削減目標額 150

05年度： 05年5月開示業績見通しベース

06-07年度： 04年11月開示中期計画ベース

財務体質の改善(2)

■ 07年度末DEレシオ0.8倍へ



| | 実績 | | | 目標 |
|-------------------------|-------|-------|-------|-------|
| | 02年度末 | 03年度末 | 04年度末 | 07年度末 |
| (単位：億円) | | | | |
| 有利子負債残高(クレジット融資関連借入金除く) | 1,113 | 988 | 899 | 750 |
| 株主資本 | 512 | 633 | 763 | 1,000 |
| DEレシオ(倍) | 2.17 | 1.56 | 1.18 | 0.75 |
| 有利子負債削減額 | - | ▲ 125 | ▲ 89 | ▲ 150 |

コアエリアにおいて初めて手がけるオペレーター案件(権益100%)

05年2月 生産分与契約締結(政府承認手続後発効)

■ オクトーバー油田(原始埋蔵量11億バレル)等の既発見油田に隣接地質学的に有望、周辺インフラ充実による開発コスト低減効果
既発見未開発2構造と未掘削3プロスペクト(Upside potential) 存在

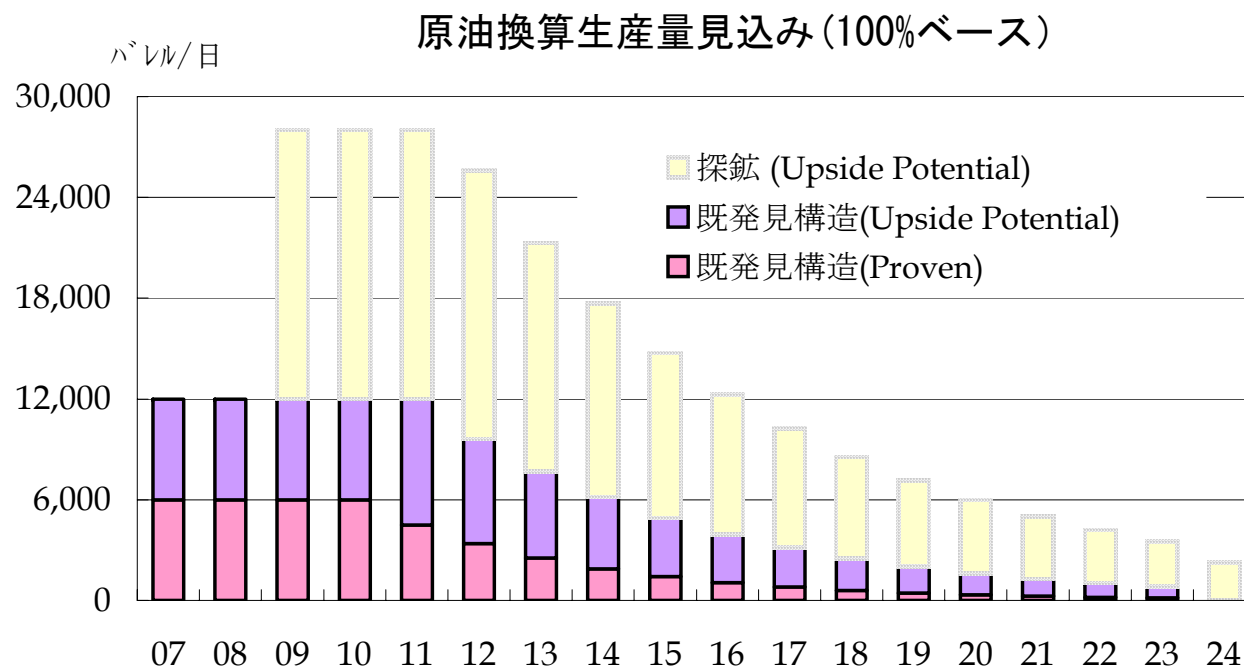
■ 今回締結した生産分与契約の特性 → 当社戦略に合致


高いコスト回収比率 = コスト上昇・油価下落リスクをヘッジ

適正な利益原油比率 = 適正リターン(税引後)を確保

早期の初期コスト回収(生産開始後3年程度でペイアウト)

■ コア・エリア他案件(カフジ、エジプトにおけるサービス契約)との人的資源等経営資源の効率的活用



A white silhouette of an industrial and city skyline is positioned at the top of the page. It includes elements like a camel caravan on the left, various industrial structures and towers in the center, and a modern city skyline with a prominent tower on the right. The background is a dark blue world map.

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

www.aochd.co.jp/

お問合せ先：

IR・広報部 関川・粕谷まで